



大人も多い練習環境で腕を磨く下山さん

輝いています

ネオホッケー全国大会最優秀選手

ひと

しも やま じょう じ
下山 讓士 さん

世界を見据えた飽くなき挑戦

皆

さんは「ネオホッケー」というスポーツをご存じでしょうか。アイスホッケーのように互いのゴールに得点し競い合う、体育館などの屋内で行われる団体球技で、危険な行為を規制しているため、幼児からシニアまでいっしょに楽しむことができます。

第二中学校2年の下山讓士さん(14歳・中央4丁目)は、8月に開催された全国小学生&中学生ネオホッケー大会・中高生混成の部に、市内の複数のクラブの選手から成るチームの一員として出場。自身二度目となる優勝を成し遂げ、最優秀選手に選ばれました。小学1年生のときに、ネオホッケーをしている母と姉に

勧められ、市内のクラブ「蔵ガラスホッパーズ」に入った下山さん。すぐに競技の魅力に目覚め、3年生で出場した小学生の全国大会では3位となるなど上り調子でしたが、5年生では予選敗退を経験。そのときのショックで一時はやる気を失い、練習に顔を出さないこともありました。

殻を破ったのは、中学校入学後。それまで小学生どうしが多かった練習環境が変わり、大人たちに混じってプレーする機会が増えると、「周囲の高いレベルになんとか追い付きたい」と奮起し、一つ一つのプレーに熱が入るようになり、力をつけて挑んだ昨年の全国大会・中高生混成の部でついに優勝を果たします。そしてセットプレーでのシュート技術を磨いた今年は、昨年とは別のチームで出場し、準々決勝以降で合計5得点の大活躍。優勝の立役者となりました。

現在は、来年3月の日本小学生&中学生ネオホッケー選手権に向けて慢心せずに練習する日々。「将来は、ネオホッケーに近い競技・フロアボールの日本代表になり、世界で活躍したいです」。更なる高みを目指し、挑戦は続きます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

— No.43 —



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)

現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。

江戸時代、王子の名所といえは王子稲荷。毎年大晦日に狐たちは王子稲荷に参詣するため、装束榎で衣装を整え、松明を灯して王子稲荷を目指すと言われました。本図は王子稲荷にまつわる芝居や伝説などを、暁斎と国周・国義が合作した錦絵です。暁斎が描いたのは左側。狐たちは、装束榎の前で郵便夫や羽織にシャツポという和洋折衷の姿や、ドレスアップした女性やポストなどに化けています。文明開化への諷刺が込められた作例といえるでしょう。

河鍋暁斎記念美術館 12月23日(月)まで

「暁斎一門が描くものけの世界」展 同時開催
「写真で見る 日本初のマンガ雑誌『絵新聞日本地』」展

開館 = 午前10時～午後4時
休館 = 木曜日・毎月26日～末日・年末年始期間
ところ = 南町4-36-4
入館料 = 一般600円 高校生・大学生500円
65歳以上500円 小・中学生300円

※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください。
(20人以上の団体は要予約)
詳細 = 同館(☎441-9780)



暁斎・国周・国義 合筆
「東京開化名所記 王子稲荷社」
明治7年(1874) 沢村屋板 大判錦絵



展覧会の詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください